

日本共産党 道議会議員

# 真下 紀子

困難のりこえ、ともに生きる

はつらつ道政レポート NO.372 2023. 9. 10発行

真下紀子事務所 旭川市3条16丁目7号

TEL 0166-20-0808 FAX 0166-20-1616 m.noriko.office@gmail.com



## 旭川の課題解決へ上川総合振興局に要望

7月28日に旭川市議団とともに、上川総合振興局に来年度予算と道政執行に対する要望書を提出し、意見交換しました。

特に物価高騰に対する暮らしと農業・中小企業への支援強化を求め、新型コロナウイルス対策、医療・介護・福祉、子育てや教育、経済や農業、交通安全、ヒグマ対

策など63項目を要望しました。特に、秋以降はエネルギーなどの物価高騰に対し、市町村が行う福祉灯油などへの支援も提案しました。福祉灯油は、中核市の旭川は道の支援対象外です。

旭川市内にも、ヒグマの出没が相次ぎ、人間の安全・安心とヒグマとの共生が大きな課題となって

おり、北海道と各市町村との連携が急務です。広域自治体として地域版実施計画（アクションプラン）の具体化や道のリーダーシップ、市町村の境界を越える場合の具体的な対応を含めた抜本的な対策の強化を提案しました。



## 児童相談所の一時保護所でも 学校と連携し、学習環境の充実を

虐待や触法行為などによって、児童相談所や里親などに委託する一時保護の子どもは年間1500人を超えています。そのうち1000人近い子どもたちは、児童相談所の一時保護所で最長2か月間過ごし、児童相談所職員が生徒指導のほか学習指導も行っています。

精神的に不安定だったり、十分授業を受けていないため学力が身についていない子どもも多く、住んでいた地域や学校から離れた児童相談所で個別対応が求められます。

一定の条件を満たす場合、指導を受けた日数が出席扱いとなるのですが、学校からテキストの提供だけでは学習環境が充実しているとはいえません。オンラインでの授業参加も例が少なく、訪問授業もありません。

子どもの事情をよく配慮して、心理的ケアをしながら、学齢期の



学習が必要です。

真下議員の質問に道教育長は、「児童生徒の学習機会の充実に向け、児童相談所と在籍校が十分に連携・協議して対応していけるよう、市町村教育委員会や関係機関に働きかける」と答えました。

### 「財界さっぽろ」に質問紹介

7月10日予算特別委員会で質問した、真下議員のラビダス関連の鋭い質問について、財界さっぽろ9月号に掲載されています。

## ヒグマ対策具体化を

道が実施した「ヒグマ対策に関する市町村アンケート」の結果をヒグマ管理検討会に報告し、対策の検討をすすめる内容が、8月1日の環境生活委員会に報告され、真下議員が質疑しました。

ヒグマを捕獲できるハンターが不足する中、アンケートでは、91%が「捕獲技術を持つ狩猟者確保が重要」と回答しています。

道が派遣調整の役割を積極的に果たすこと、行政ハンターも含めた人材育成と、アンケート結果の地域版実施計画への反映とともに振興局への専門職員配置、業務に比して少なすぎる職員の増員も求めました。

道は、国に人材確保のための支援制度の創設を求め、必要に応じて、実施計画に基づく各種対策に反映させると答えました。

## アイヌ語の話者の減少が深刻

# アイヌ語の伝承 支援強化求める

アイヌ文化は、縄文時代から、緩やかかつ連続的に移行し、アイヌは形質的・遺伝子的に縄文人の特徴を色濃く受け継いでいると言われています。またアイヌは独自の文化とともに、孤立言語のひとつである独自の言語をもちます。口述で伝承され、文字をもっていません。道の調査で、アイヌ語で会話のできる話者の減少が深刻になっています。8月1日の道議会環境生活委員会で、日本共産党の真下紀子議員が、アイヌの歴史と文化の継承について質問しました。



## アイヌ語話者の減少深刻

2019年の道によるアイヌの生活実態調査では、アイヌ語で「会話ができる」0.7%、「少し会話ができる」3.4%と極めて少なく、話者の減少は深刻です。

道はアイヌ語継承のため、アイヌ民族文化財団による習熟度別講座やラジオ講座、公立小中学校生徒と教師用教材の配布にとりくんでいます。道は今回の生活実態調査でも質問すると答えました。

## 金成マツノートも活用を

今年、アイヌ神謡集を翻訳した知里幸恵の没後100年。その叔母が、旭川の金成マツです。金田一京助のユーカラ研究に協

力するため、昭和3年から昭和22年まで、92話のユーカラを174冊の大学ノートにローマ字で筆録した翻訳は『金成マツノート』と呼ばれています。1万2530ページ、総曲数は113に及び、道の文化財に認定されています。

金成マツノートは1978年から国の補助事業で毎年報告書が刊行されていましたが、一時中断されそうになった2006年、真下議員が文科省と知事に事業継続

を求め、2026年まで継続されています。

真下議員は、金成マツノートや知里幸恵の翻訳も活用し、希少なアイヌ語の伝承を求めました。

## 全道各地への展開を

道は、白老町のウポポイをアイヌ文化発信の中核センターとして誘客促進に力を入れています。道内には、知里幸恵・銀のしずく記念館、旭川市博物館、新館がオープンした川村カ子ト記念館など、各地に多様なアイヌの歴史・文化関連施設があります。真下議員は、ウポポイにとどまらず、全道のアイヌ文化への展開・広報も求めました。



工事費を増額せずに保存できるようにしてください。

真下議員が保存に尽力した森町の鷲ノ木遺跡も登録されました。高速道路の工事中に発見された鷲ノ木遺跡。継続求めた議会質問に、トンネル作ってもいいのかとヤジが飛び中、残すべき遺産と主張。



ユネスコ世界遺産に登録された北海道・北東北の縄文遺跡群。国宝級の土器が展示される北海道博物館の特別展「北の縄文世界と国宝展」が10月1日まで開催されています。

## 北の縄文世界と国宝展

道議会・道政へのご意見・ご要望をお寄せください。